The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	<図書紹介>佐藤敬二監　桜風舎編『京のかたちと文様の事典 ここにしかない，伝統とモダンの美』
Author(s)	廣田，孝
Citation	デザイン理論. 2009, 54, p. 75-75
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53503
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

佐藤敬二監　桜風舎編
『京のかたちと文様の事典 ── ここにしかない，伝統とモダンの美』
ＰＨＰ　2009年

廣田　孝／京都女子大学家政学部

まったく新しいフレッシュな視点から切り取られた京都の伝統文様とそれを受け継いだ現代的なデザインの事典である。本書の構成は伝統編，現代編，資料編と３部作になっており，各ページには大きく写真が配置され，ビジュアル的な見方が主体となっている。以前に「フォーカス」という写真主体の報道週刊誌が流行った。通勤電車内での読書を前提に記事の長さを短くする工夫された，と聞いたことがある。そのような写真と軽快な文章の組み合わせであり，本書の新しさである。

監修者である佐藤敬二氏は本書の主たる著者である。各編の最後にコラムとして１ページないしは２ページにわたって各々の分野の記述と説明が要領よくまとめられている。

従来，京都の伝統芸術・工芸は奥が深く，各分野の専門家が記述することを主としてきた。伝統文様についても同様で，歴史が長すぎると途中経過をはしょって「伝統」という一語のもとに古くからカタチにこだわってきたように思われる。

佐藤敬二氏の経歴を見ると京都市産業技術研究所研究部長をへて，現在，京都精華大学で「京都の伝統美術・工芸」や「近代工芸史」などの講座を担当し，そのような立場から京都の伝統について多大の知識を蓄えてこられたことが本書の隅々から理解される。これは佐藤氏だけに限らず，岡田香絵氏，芳井敬郎氏の解説にも認められる特徴であろう。

伝統という切り口を取ると，古くからの記事・記録を取り上げるためにどうしても古い記録写真などを持ち出したくなる。即ち，暗い写真が多くなり，しかも堅苦しい様相やアングルから撮った写真が多くなる。同時にこのような展開を取ると，いつも同じ写真が掲載されることも多かった。その点，本書の写真はとても明るくて楽しい。若年層のデザイナーも古典や伝統文様などに興味を抱くと思われるが，本書のような項目の並べ方，大きくて明るい写真を見ながら，軽妙な説明を読むことができる本書は，若い人をターゲットにした京都本という気もする。

本書では，人間のサイズを越えた建築などの大きなモノからお菓子のような手に収まる小さなモノまで含まれている。それらはサイズの大小に関わらず，全て人間の造形感覚を基礎にしてデザインされた事を再確認しようとしているようだ。その点こそ佐藤氏の本書を作成された目的ではないか，と思う。

本書はまさしく「用途を持つ造形」に対応するデザインをコンパクトに切り取って見せている。

また注目すべき点は，伝統的な京都デザインを現代に生かした「KYOTO COLLECTION」などの現代ファッション用品の数々である。現在の京都ブランドの生産物の写真を提示されている。その中に従来の京都の伝統が如何に生かされているか，を考えながら作品を見るのは誠に興味深い。ビジュアルな「京都学」の入門書ともいえるであろう。

佐藤氏が京都市産業技術研究所に勤務しておられた事は先に紹介したが，在職中に在京企業の相談を受けて生産に至った品と拝察した。これらの作品から今後の京都産業を活性化するための道標が見えるように思われる。